

3. 調査結果の概要

(1) 生息の確認された魚類等

前回調査では既存の調査文献により、これまでに琵琶湖および県下の河川で生息の確認されていた魚類70種類、甲殻類（エビ類・カニ類）7種類の内、定点一斉調査で確認されなかった魚類はヤマメ、カワバタモロコ、アオウオ、カワヒガイ、ニッポンバラタナゴ、アユモドキの6種類で、甲殻類（エビ類・カニ類）ではタンカイザリガニの生息が確認できなかった。確認できなかった種については補完調査を行い、最終的に生息の確認できなかった魚類等は、アオウオ、カワヒガイ、ニッポンバラタナゴ、アユモドキの4種類であった。

今回の調査で確認できなかった魚類は、ニジマス、ヤマメ、カワバタモロコ、ソウギョ、アオウオ、ワタカ、ハクレン、カワヒガイ、アブラヒガイ、ズナガニゴイ、ニッポンバラタナゴ、イチモンジタナゴ、シロヒレタビラ、アユモドキ、スジシマドジョウ、ホトケドジョウ、ビワコオオナマズ、イワトコナマズ、メダカ、ハリヨの20種類となった。甲殻類ではタンカイザリガニ、モクズガニの2種類であった。

このうちワタカ、スジシマドジョウ、ホトケドジョウ、メダカ、モクズガニの4種は調査期間内に行われた水産試験場の他の調査で採捕された。また、ニジマス、カワバタモロコ、ソウギョ、アオウオ、ハクレン、アブラヒガイ、シロヒレタビラ、ビワコオオナマズ、イワトコナマズ、ハリヨの11種については漁業者等からの聞き取りにより生息が確認された。特に、カワバタモロコ、ソウギョ、アオウオの3種は水産試験場に搬入され、魚体を確認している。

今回の調査では、定点一斉調査で確認されなかった種に対して、補完調査の実施は行わなかった。従って、最終的に確認されなかった魚類等はヤマメ、カワヒガイ、ズナガニゴイ、ニッポンバラタナゴ、イチモンジタナゴ、アユモドキ、タンカイザリガニの7種類であった。

なお、前回調査では確認されなかったアオウオが彦根市地先のエリで漁獲され、水産試験場に搬入された。また、大戸川上流では違法に放流されたものと思われるコクチバスが複数尾採捕されている。

(2) 魚類等の量的状況

表4に今回の調査結果をもとに魚類の水域別生息状況の多寡を示した。後述の水域別調査結果より、多くの地点（ある水域例えば河川上流で、調査した地点の半数以上）に生息しており、一定の採集努力あたりの採集数が多い（一定の採集努力により採集数をランク分けした時、調査した地点の半数以上で採集数が多いランクに該当する）魚種には★★★★印を付した。また多くの地点に生息しているが、採集数の少ない魚種には★★★印を、生息地点は少ないが（水域別調査地点の半数未満で生息）、採集数は多い魚種には★★印を、生息地点、採集数ともに少ない魚種には★印を、水産試験場の他の調査で生息の確認できた魚種には☆印を、漁業者等からの聞き取りにより生息の確認できた魚類には◇印を付した。

同様にして表5に甲殻類（エビ類、カニ類）の生息状況の多寡を示した。

表4、表5より、次のような点に留意して魚類等の滋賀県下における生息状況を類型化した。表4、表5において、ある水域例えば河川上流ではどういう魚類が多く、また少ないかという見方は正しいが、ある魚種例えばスナヤツメがどの水域に多いかあるいは少ないかという見方は採集方法（採集努力）が水域ごとに異なるので単純には比較できない。さらにこの表の生息数の多い少ないは採集結果によるものであり、水産試験場の試験採捕ではエリの標本採集を除き大型の魚類を採集することが難しいため、大型の魚種は実際より生息数が少なく表現されている。ただ大型の魚種ほど（例えばビワコオオナマズのように）生息数が少なく、逆に小型であればあるほど（例えばヨシノボリのように）生息個体数が多いというのが自然界では一般的である。

魚類等の現在の生息状況を前回調査に準じて類型化した。

【琵琶湖および県下の河川等に普通に見られる魚類・甲殻類（33種類）】

琵琶湖から河川の上流まで普通に見られる魚類・甲殻類（0種類）

琵琶湖で普通に見られるが、河川の中下流でも見られる魚類・甲殻類（21種類）

ワカサギ、アユ、ビワマス、ウグイ、ビワヒガイ、カマツカ、ゼゼラ、スゴモロコ、デメモロコ、ニゴイ、ニゴロブナ、カネヒラ、オオクチバス、ブルーギル、ヨシノボリ、ヌマチチブ、ウキゴリ、ウツセミカジカ、テナガエビ、スジエビ、アメリカザリガニ

（ビワマスは本調査での採集数は少ないが、漁獲統計では年間30トン前後漁獲されていることよりこの類型に加えた。）

主として河川の中・下流で普通に見られる魚類・甲殻類（5種類）

オイカワ、ハス、ギンブナ、ナマズ、ドンコ

主として河川の上流で普通に見られる魚類・甲殻類（7種類）

イワナ、アマゴ、カワムツ、タカハヤ、アカザ、カワヨシノボリ、カジカ

表2 前回調査で生息の確認された魚類と今回調査で生息の確認された魚類の対比
 ●:当調査で採捕された種 ○:当調査期間中に水産試験場の他の調査で採捕された種 △:漁業者等の聞き取りにより生息の確認できた種

種名	'94~'95調査			'02~'03調査		
	河川	内湖	琵琶湖	河川	内湖	琵琶湖
1 スナヤツメ	●		●	●		●
2 ウナギ	●	●	●	●	○	●
3 ワカサギ		●	●		●	●
4 アユ	●	●	●	●	●	●
5 イワナ	●			●		
6 ニジマス	●			△		
7 ヤマメ	●					
8 アマゴ	●			●		
9 ビワマス	●		●	●		●
10 カワムツ	●	●	●	●	●	●
11 オイカワ	●	●	●	●	●	●
12 ハス	●	●	●	●	○	●
13 カワバタモロコ		●池			△池	
14 ウグイ	●		●	●		●
15 アブラハヤ	●		●	●		
16 タカハヤ	●			●		
17 ソウギョ			△			△
18 アオウオ						△
19 ワタカ		●			○	○
20 ハクレン			●			△
21 タモロコ	●	●	●	●	○	○
22 ホンモロコ	●	●	●	●	●	●
23 ムギツク	●			●		
24 モツゴ	●	●	●	●	●	●
25 カワヒガイ						
26 ビワヒガイ	●	●	●	●	○	●
27 アブラヒガイ			●			△
28 カマツカ	●	●	●	●	○	●
29 ツチフキ		●			●	
30 ゼゼラ	●	●	●	●		●
31 スゴモロコ	●		●		○	●
32 デメモロコ	●		●		●	●
33 イトモロコ	●			●		
34 ニゴイ	●		●	●		●
35 ズナガニゴイ	●					
36 コイ	●	●	●	●	○	●
37 ニゴロブナ	●	●	●	●	●	●
38 ゲンゴロウブナ	●	●	●	●		●
39 ギンブナ	●	●	●	●	●	●
40 ヤリタナゴ	●	●	●	●	○	●
41 アブラボテ	●			●		
42 タイリクバラタナゴ	●	●	●	●	●	●
43 ニッポンバラタナゴ						
44 イチモンジタナゴ		●				
45 シロヒレタビラ			●			△
46 カネヒラ	●		●	●	○	●
47 アユモドキ						
48 ドジョウ	●		●	●		○
49 スジシマドジョウ	●		●			○
50 シマドジョウ	●			●		

種名	'94～'95調査			'02～'03調査		
	河川	内湖	琵琶湖	河川	内湖	琵琶湖
51 アジメドジョウ	●			●		
52 ホトケドジョウ	●			○		
53 ギギ	●		●	●		△
54 アカザ	●			●		
55 ナマズ	●			●		●
56 ビワコオオナマズ			△			△
57 イワトコナマズ			●			△
58 メダカ	●	●		○		
59 ハリヨ	△			△		
60 カムルチー		●	●	●	●	●
61 コクチバス			●	●		
62 オオクチバス	●	●	●	●	●	●
63 ブルーギル	●	●	●	●	●	●
64 ドンコ	●	●		●		
65 ヨシノボリ	●	●	●	●	●	●
66 カワヨシノボリ	●			●		
67 ヌマチチブ	●	●	●	●	●	●
68 イサザ			●			●
69 ウキゴリ	●	●	●	●		●
70 カジカ	●			●		
71 ウツセミカジカ	●		●	●		●

表3 前回調査で生息の確認された甲殻類と今回調査で生息の確認された甲殻類の対比
●:当調査で採捕された種 ○:当調査期間中に水産試験場の他の調査で採捕された種 △:漁業者等の聞き取りにより生息の確認できた種

種名	'94～'95調査			'02～'03調査		
	河川	内湖	琵琶湖	河川	内湖	琵琶湖
1 ヌマエビ	●		●	●		●
2 テナガエビ	●	●	●	●	●	●
3 スジエビ	●	●	●	●	●	●
4 タンカイザリガニ		●池				
5 アメリカザリガニ	●	●	●	●	●	●
6 サワガニ	●			●		
7 モクズガニ			△			○

【生息数が少ないと考えられる魚類・甲殻類（37種類）】

特定の地域・水域にしか生息していない魚類・甲殻類（7種類）

カワバタモロコ、ツチフキ、イトモロコ、アジメドジョウ、ホトケドジョウ、ハリヨ、サワガニ

生息が偏在しかけていると考えられる魚類・甲殻類（12種類）

アブラハヤ、ワタカ、タモロコ、ムギツク、モツゴ、ヤリタナゴ、アブラボテ、タイリクバラタナゴ、ドジョウ、スジシマドジョウ、シマドジョウ、メダカ

放流した経緯があるが、再生産せず生息量の少ない魚類・甲殻類（5種類）

ウナギ、ニジマス、ソウギョ、アオウオ、ハクレン、

全般的に生息量が少ないと考えられる魚類・甲殻類（13種類）

スナヤツメ、ホンモロコ、アブラヒガイ、コイ、ゲンゴロウブナ、シロヒレタビラ、ギギ、ビワコオオナマズ、イワトコナマズ、カムルチー、イサザ、ヌマエビ、モクズガニ

【生息の確認できなかった魚類・甲殻類（7種類）】

ヤマメ、カワヒガイ、ズナガニゴイ、ニッポンバラタナゴ、イチモンジタナゴ、アユモドキ、タンカイザリガニ

【新たに生息が確認された魚類（1種類）】

コクチバス

前回調査で確認された種のうち、今回の調査や確認情報等により増減の傾向を以下に示した。

【前回調査より増加傾向にある種（4種類）】

ワカサギ、ハス、カネヒラ、ブルーギル

【前回調査と同程度の生息量と思われる種（34種類）】

イワナ、アマゴ、ビワマス、カワムツ、タカハヤ、ワタカ、ムギツク、モツゴ、ツチフキ、ゼゼラ、スゴモロコ、デメモロコ、ニゴイ、ニゴロブナ、ギンブナ、ヤリタナゴ、タイリクバラタナゴ、ドジョウ、スジシマドジョウ、アジメドジョウ、ナマズ、オオクチバス、ドンコ、ヨシノボリ、カワヨシノボリ、ヌマチチブ、イサザ、ウキゴリ、カジカ、ウツセミカジカ、ヌマエビ、テナガエビ、スジエビ、アメリカザリガニ

【前回調査より減少傾向にある種（24種類）】

スナヤツメ、ウナギ、アユ、オイカワ、ウグイ、アブラハヤ、タモロコ、ホンモロコ、ビワヒガイ、アブラヒガイ、カマツカ、イトモロコ、コイ、ゲンゴロウブナ、

アブラボテ、イチモンジタナゴ、シロヒレタビラ、シマドジョウ、ホトケドジョウ、ギギ、アカザ、メダカ、カムルチー、サワガニ

【採捕できなかつたり、情報不足のため増減の不明な種 (11種類)】

ニジマス、ヤマメ、カワバタモロコ、ソウギョ、ハクレン、ズナガニゴイ、
ピワコオオナマズ、イワトコナマズ、ハリヨ、タンカイザリガニ、モクズガニ

【新たに生息が確認された種 (2種類)】

アオウオ、コクチバス

増加傾向にある種のうち、ワカサギは前回調査頃(1994年頃)より急に増えだし、現在では定着し、生息量も多く、漁獲対象種となっている。また、ブルーギルは、前回調査でも比較的多い方であるが、今回調査では河川中下流部や琵琶湖沖合でも採集されており、特に琵琶湖沿岸部や内湖での増加傾向が著しい。

前回調査より減少傾向にある種の内、スナヤツメ、ウナギ、アブラハヤ、ホンモロコ、コイ、ゲンゴロウブナ、シマドジョウ、ギギ、サワガニの9種は、「前回調査では普通に見られる魚類・甲殻類」に類型されていたが、今回調査では「生息数が少ないと考えられる魚類・甲殻類」に類型された。また、前回調査でも「生息数が少ないと考えられる魚類・甲殻類」に類型されたアブラヒガイ、イトモロコ、イチモンジタナゴ、シロヒレタビラ、ホトケドジョウ、メダカ、カムルチーの7種は今回調査ではさらに減少傾向にあると思われる。

なお、前回調査と同程度の生息と思われる種に類型した中には、前回調査よりすでに「生息数が少ないと考えられる魚類・甲殻類」に類型された、ワタカ、ムギツク、モツゴ、ツチフキ、ヤリタナゴ、タイリクバラタナゴ、ドジョウ、スジシマドジョウ、アジメドジョウ、イサザ、ヌマエビの11種が含まれており、依然として生息量の少ない状態のままである。

全般的に魚類は減少傾向にあり、環境はよい方向には進んでいないと思われる。

表4 魚類の水域別生息状況の多寡 (★★★★ 多くの地点に生息しており、採集数も多い。
 ★★★ 多くの地点に生息しているが、採集数は少ない。 ★★ 生息地点は少ないが、採集数は比較的多いところがある。 ★ 生息地点、採集数ともに少ない。 ☆水産試験場の他の調査で確認できた種。 ◇ 漁業者等からの聞き取りにより生息の確認できた種。)

魚種名	内陸部 (河川・内湖・池沼)				琵琶湖	
	河川上流	河川中流	河川下流	内湖・池	沿岸	沖合
1 スナヤツメ	★	★	★		★	
2 ウナギ	★	★	★	☆	★	
3 ワカサギ				★★	★★★	★★★★
4 アユ	★	★★★★	★★★★	★	★★★★	★★★★
5 イワナ	★★★					
6 ニジマス	◇					
7 ヤマメ						
8 アマゴ	★★★	★				
9 ビワマス			★		★	★★
10 カワムツ	★★★★	★★★★	★	★	★	
11 オイカワ	★	★★★★	★★★★	★	★★	★
12 ハス			★		★★★★	★★★★
13 カワバタモロコ				◇		
14 ウグイ	★★	★	★		★★★	★★
15 アブラハヤ	★★	★★	★			
16 タカハヤ	★★★★	★				
17 ソウギョ					◇	
18 アオウオ					◇	
19 ワタカ				☆	☆	
20 ハクレン					◇	
21 タモロコ		★	★	☆	☆	
22 ホンモロコ	★			★	★	★
23 ムギツク	★	★★				
24 モツゴ		★	★	★★	★	
25 カワヒガイ						
26 ビワヒガイ		★		☆	★★★	★
27 アブラヒガイ					◇	
28 カマツカ	★★	★★	★★★	☆	★	★★★
29 ツチフキ				★		
30 ゼゼラ			★★		★★★★	★★★★
31 スゴモロコ				☆	★★★	★★
32 デメモロコ				★	★★★	★★★★
33 イトモロコ		★				
34 ニゴイ		★	★★		★★★	★
35 ズナガニゴイ						
36 コイ		★		☆	★	★
37 ニゴロブナ	★		★	★	★	★★★
38 ゲンゴロウブナ					★	★
39 ギンブナ	★	★★★	★★★	★	★	★
40 ヤリタナゴ		★	★	☆	★	
41 アブラボテ	★	★				
42 タイリクバラタナゴ		★★	★	★★	★	
43 ニッポンバラタナゴ						
44 イチモンジタナゴ						

魚種名	水域	内陸部（河川・内湖・池沼）				琵琶湖	
		河川上流	河川中流	河川下流	内湖・池	沿岸	沖合
45 シロヒレタビラ						◇	
46 カネヒラ			★	★	☆	★★★	
47 アユモドキ							
48 ドジョウ	★	★		☆		☆	
49 スジシマドジョウ						☆	
50 シマドジョウ	★★	★★	★				
51 アジメドジョウ	★★	★					
52 ホトケドジョウ				☆			
53 ギギ		★				◇	
54 アカザ	★★★	★					
55 ナマズ	★	★	★★★			★	
56 ビワコオオナマズ						◇	
57 イワトコナマズ						◇	
58 メダカ				☆			
59 ハリヨ		◇					
60 カムルチー			★	★		★	
61 コクチバス	★						
62 オオクチバス		★	★★★	★★★	★★★	★★★	★
63 ブルーギル		★★	★★	★★★★	★★★★	★★★★	★★★★
64 ドンコ	★	★★★					
65 ヨシノボリ	★	★★★★	★★★★	★	★★★★	★★★★	★★★★
66 カワヨシノボリ	★★★★	★★★					
67 ヌマチチブ	★★		★★★★	★	★★★	★	
68 イサザ					★★	★	
69 ウキゴリ		★	★★★★		★★★		
70 カジカ	★★★★	★					
71 ウツセミカジカ			★★		★★★★	★★★★	

表5 甲殻類の水域別生息状況の多寡（★★★★ 多くの地点に生息しており、採集数も多い。
★★★ 多くの地点に生息しているが、採集数は少ない。★★ 生息地点は少ないが、採集数は比較的多いところがある。★ 生息地点、採集数ともに少ない。☆水産試験場の他の調査で確認できた種。◇ 漁業者等からの聞き取りにより生息の確認できた種。）

魚種名	水域	内陸部（河川・内湖・池沼）				琵琶湖	
		河川上流	河川中流	河川下流	内湖・池	沿岸	沖合
1 ヌマエビ				★★		★	
2 テナガエビ			★★	★★★★	★★★	★★★★	★★★
3 スジエビ	★	★	★★★★	★★★★	★★★★	★★★★	★★★★
4 タンカイザリガニ							
5 アメリカザリガニ			★	★★	★★★		
6 サワガニ		★					
7 モクズガニ						★	

(3) 各水域における生息状況

1) 河川における生息状況

河川における調査では魚類 46 種（スナヤツメ、ウナギ、アユ、イワナ、アマゴ、ビワマス、カワムツB型、カワムツA型、オイカワ、ハス、ウグイ、アブラハヤ、タカハヤ、タモロコ、ホンモロコ、ムギツク、モツゴ、ビワヒガイ、カマツカ、ゼゼラ、イトモロコ、ニゴイ、コイ、ニゴロブナ、ギンブナ、ヤリタナゴ、アブラボテ、タイリクバラタナゴ、カネヒラ、ドジョウ、シマドジョウ、アジメドジョウ、ギギ、アカザ、ナマズ、カムルチー、コクチバス、オオクチバス、ブルーギル、ドンコ、ヨシノボリ、カワヨシノボリ、ヌマチチブ、ウキゴリ、カジカ、ウツセミカジカ）、甲殻類（エビ類・カニ類のみ）5種（ヌマエビ、テナガエビ、スジエビ、アメリカザリガニ、サワガニ）が採集された。またハリヨは醒井養鱒分場の調査で生息を確認した。

前回調査の結果と比較すると、前回調査で河川において確認されたニジマス、ヤマメ、スゴモロコ、デメモロコ、ズナガニゴイ、ゲンゴロウブナ、ホトケドジョウ、メダカが今回の調査では確認されなかった。また、前回調査では河川で出現しなかったカムルチーとコクチバスが採捕された。甲殻類は前回調査と同じ種類が確認された。

前回調査が行われた時とは河川流量や調査地点数、調査範囲などの採集条件が異なるため、前回調査で出現し、今回調査で出現しなかった種類が居なかったと判断することは出来ない。ヤマメは前回調査では日本海へ注ぐ天増川でのみ生息が確認されたが、今回の調査では対象河川に含めなかった。ニジマスは従来から天然での繁殖は確認されず、遊漁のための河川放流によって資源が維持されている種類である。それ以外の種類については、採集時の条件が影響して採捕されなかったのか、生息量自体が減っているのか、この結果からは判断出来ないが、ズナガニゴイ、ホトケドジョウ、メダカは前回調査においても採捕個体数の少なかった種類である。なお、ホトケドジョウ、メダカについては調査期間中に行われた水産試験場の水田水路調査で採捕された。

一方、違法に放流されたコクチバスが新たに大戸川の上流で採捕されたが、今回の調査結果では、採捕された場所は狭い範囲に限られていた。オオクチバスやブルーギルは河川の上流では採捕されず、琵琶湖から入り込みやすい下流域を中心に分布していると思われるが、コクチバスは上流で見つかったことから、今後、下流や他の水系へ拡散することがないように注意深く見守る必要がある。

河川における地点別魚類等の採集結果を、前回調査の結果と対比させて表 6 に示した。同一水系内で上流地点、中流地点および下流地点の調査を行った河川は、姉川、愛知川、野洲川、安曇川の 4 河川である。姉川では魚類 25 種（前回 24 種）、甲殻類 4 種（前回 2 種）、愛知川では魚類 32 種（前回 28 種）、甲殻類 3 種（前回 2 種）、野洲川では魚類 30 種（前回 40 種）、甲殻類 2 種（5 種）、安曇川では魚類 24 種（前回 27 種）、甲殻類 3 種（前回 2 種）が採集された。野洲川での確認種数が前回調査に比べて 10 種類少なかったが、今回の調査では河川流量が多かったために調査範囲が限定されたことが影響した。

2) 内湖

内湖の調査では魚類16種（ワカサギ、アユ、カワムツ、オイカワ、ホンモロコ、モツゴ、ツチフキ、デメモロコ、ニゴロブナ、ギンブナ、タイリクバラタナゴ、カムルチー、オオ

クチバス、ブルーギル、ヨシノボリ、ヌマチチブ)、甲殻類3種(テナガエビ、スジエビ、アメリカザリガニ)が採集された。

前回調査では魚類29種、甲殻類3種が採捕されており、前回調査の内湖における調査で採捕されているが、今回調査で採捕されなかった種はウナギ、ハス、ワタカ、タモロコ、ビワヒガイ、ゼゼラ、コイ、ゲンゴロウブナ、イチモンジタナゴ、メダカ、ウキゴリの11種であった。このうちウナギ、ハス、タモロコ、ビワヒガイ、コイについては当調査期間内に行われた水産試験場の他の調査(湖北町野田沼調査)で採捕された。ワタカについては堅田内湖において種苗生産の親魚確保の目的で釣獲により採捕された。

オオクチバスは堅田内湖を除き採捕されたが、堅田内湖でも目視により確認されており、ブルーギルは全ての内湖で採捕された。

内湖における地点別魚類等の採集結果を、前回調査の同地点の結果と対比させて表7に示した。

それぞれの内湖調査結果を前回調査と比較すると、どの内湖も魚種数は減少しており、特に西の湖の魚種の減少が著しい。これには前回調査は同地点での調査回数、調査日数ともに多いことも考えられるが、今回調査で採捕されたものはほとんどがブルーギルで、魚類相がブルーギルに単純化していると思われた。また、近江舞子内湖で採捕されたものもほとんどがオオクチバス、ブルーギルで占められており、魚類相が単純化していると思われた。伊庭内湖は今回の内湖調査では種数は多い方であるが、ブルーギルの量は多く、ブルーギルが優占化しつつあると思われた。余呉湖も魚類種数の減少が著しく、これには前回調査と同じ場所での調査ができなかったことも考えられるが、前回調査では採捕されていない、オオクチバス、ブルーギルが採捕されており、今後が危ぶまれる。堅田内湖については、オオクチバス、ブルーギル以外の魚類が多数採捕されているが、オオクチバスは目視でブルーギルは採捕で確認されており、今後の動向に注意が必要である。

3) 沿岸帯

沿岸帯における調査では魚類33種(スナヤツメ、ウナギ、ワカサギ、アユ、ビワマス、カワムツ、オイカワ、ハス、ウグイ、ホンモロコ、モツゴ、ビワヒガイ、カマツカ、ゼゼラ、スゴモロコ、デメモロコ、ニゴイ、コイ、ニゴロブナ、ゲンゴロウブナ、ギンブナ、ヤリタナゴ、タイリクバラタナゴ、カネヒラ、ナマズ、カムルチー、オオクチバス、ブルーギル、ヨシノボリ、ヌマチチブ、イサザ、ウキゴリ、ウツセミカジカ)、甲殻類4種(ヌマエビ、テナガエビ、スジエビ、アメリカザリガニ)が採集された。

前回調査では魚類42種、甲殻類4種が採捕されており、前回調査の琵琶湖沿岸における調査で採捕されているが、今回調査で採捕されなかった種はアブラハヤ、ハクレン、タモロコ、アブラヒガイ、シロヒレタビラ、ドジョウ、スジシマドジョウ、ギギ、イワトコナマズの9種であった。このうちタモロコ、ドジョウ、スジシマドジョウについては当調査期間内に行われた水産試験場の他の調査(沿岸部小型定置網調査)で採捕された。また、ハクレン、アブラヒガイ、シロヒレタビラ、ギギ、イワトコナマズについては漁業者からの聞き取りにより、調査期間内にエリや刺網で漁獲されたことを確認した。

前回調査で漁業者からの聞き取りにより確認された、ソウギョ、ビワコオオナマズ、モクズガニについては、ソウギョは能登川町地先のエリにより漁獲され、水産試験場に搬入

された。ビワコオオナマズは漁業者からの聞き取りにより確認した。モクズガニは当調査期間内に行われた水産試験場の他の調査（沿岸部小型定置網調査）で採捕された。

琵琶湖沿岸における地点別魚類等の採集結果を、前回調査の同地点の結果と対比させて表8（小型定置網による採集結果）、表9（小型沖曳網による採集結果）および表10（エリ漁獲物の標本採集結果）に示した。

琵琶湖沿岸で採集された魚類33種、甲殻類4種のうち、小型定置網および小型沖曳網調査で採集されたものは魚類31種、甲殻類4種であった。前回調査と今回調査で同地点で行われた調査結果を比較すると、小型沖曳網調査の湖北町尾上沖と大津市本堅田沖以外は採捕魚種数が減少している。特に小型定置網調査の大津市衣川では採捕種数の減少が著しく、採捕魚のほとんどはブルーギルであった。同じ南湖調査である、小型沖曳網調査の大津市堅田沖でも採捕魚はほとんどブルーギルであり、南湖では魚類相が単純化していると思われる。また、小型定置網調査の近江八幡市牧町でも採捕種数は約半減しており、採捕魚のほとんどはブルーギルであった。

比較的採捕魚種数の多いのは、小型定置網調査の湖北町延勝寺、彦根市八坂町、新旭町針江であったが、採捕尾数中ブルーギルの占める割合は多かった。小型沖曳網調査ではどの地点でもハゼ科の稚魚が比較的多く採捕されたが、近江八幡市牧町沖ではコイ科の稚魚も採捕された。

ヨシ群落等の沿岸域ではブルーギルが優先しつつあり、特に南湖では魚類相の単純化が進んでいると思われた。

エリの漁獲物調査では魚類25種、甲殻類2種が採集された。前述の小型定置網調査および小型沖曳網調査で採集された以外の魚種はスナヤツメ、デメモロコであった。前回調査と比較すると東部を除いて魚種数は減少している。特に東南部と南部での採捕魚種数の減少が著しい。

4) 琵琶湖沖合における生息状況

琵琶湖沖合における調査では魚類23種（ワカサギ、アユ、ビワマス、オイカワ、ハス、ウグイ、ホンモロコ、ビワヒガイ、カマツカ、ゼゼラ、スゴモロコ、デメモロコ、ニゴイ、コイ、ニゴロブナ、ゲンゴロウブナ、ギンプナ、オオクチバス、ブルーギル、ヨシノボリ、ヌマチチブ、イサザ、ウツセミカジカ）、甲殻類2種（テナガエビ、スジエビ）が採捕された。

今回調査は前回調査より多くの場所の調査を行ったため、前回調査では採捕されていないオイカワ、コイ、ギンプナが採捕された。

前回調査と同地点の調査は長浜市沖、安曇川町沖、彦根市沖、近江八幡市沖であるが、採捕魚種数は各地で増減はあるものの、大きくは変わっておらず、むしろ増加している地点も多い。魚種別に見るとワカサギ、ハスは増加傾向であり、特にワカサギは前回調査より各地で採捕され、尾数も多くなっている。一方、ホンモロコ、デメモロコ、スジエビは減少傾向で、特にホンモロコの減少は著しく、今回調査では秋期、冬期をあわせて45地点での調査にもかかわらず、合計で28尾しか採捕されなかった。

従来、沖曳網漁業はホンモロコ、スゴモロコ、デメモロコといったモロコ類やスジエビおよびイサザを対象とする漁法であったが、近年、それらの減少とワカサギの増加により、

ワカサギが主たる漁獲物に変わってきており、漁法もワカサギに合わせて、曳網速度を速めたり、目合いを荒くする等のワカサギ用沖曳網として改良されてきている。また、ワカサギ沖曳から派生して、従来、沖曳網ではあまり漁獲されることはなかった大型のフナをねらう沖曳網も出現してきている。但し、今回の調査では前回調査に準ずるため、前回調査と同様の目合いの沖曳網を使用した。

表6 河川における地点別魚類等採集結果(1)

種名	姉川				芹川				愛知川					
	1994		2002~03年		1994		2002		1994年		2002~03年			
	上流 (高時川)	上流	中流	下流	上流 (高時川)	上流	中流	下流	上流	中流	下流	上流	中流	下流
スナヤツメ			△	△	△		△				△	△		△
ウナギ	△				△		△		△	△	△	△		
アユ	△		○	○	△		◎	△	△	△	△		○	△
イワナ	○	○			○	○			○	○	△			△
ニジマス									△		△			
ヤマメ														
アマゴ	◎	○	△		○	○	△		○	○	○	△		△
ビワマス												△		
カワムツ		○	◎	△		○	◎		△	△	△	◎		△
オイカワ			◎	◎			○	◎			△	◎	○	◎
ハス														
ウグイ			○				○				○			
アブラハヤ	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	○	△	◎	△		◎	◎
タカハヤ	○	○	○		○	◎	△		◎	◎	◎		◎	
タモロコ								△						
ホンモロコ														
ムギツク											○			○
モツゴ														△
ビワヒガイ							△							
カマツカ				△							△	△	△	
ゼゼラ														○
スゴモロコ														
デメモロコ														
イトモロコ														△
ニゴイ														
ズナガニゴイ														
コイ		△												△
ニゴロブナ													△	
ゲンゴロウブナ													△	△
ギンブナ											○	○		○
フナ類稚魚				△				△						△
ヤリタナゴ								△						
アブラボテ			○											△
タイリクバラタナゴ														
カネヒラ														
ドジョウ			△				△							△
シマドジョウ			○	△		△	○	△	△		○	○	△	◎
アジメドジョウ											○		◎	△
ホトケドジョウ			△											
ギギ												△		△
アカザ					△	△					△	△		△
ナマズ			△	△				△			△	△		△
メダカ											△	△		
カムルチー														△
コクチバス														
オオクチバス								△						△
ブルーギル														○
ドンコ			△	△			△		△		△			△
ヨシノボリ			◎	○			◎	◎			○	○		◎
カワヨシノボリ		△	△			△	△			△			△	△
ヌマチチブ			△	△			○				△	△		○
ウキゴリ				△			△				△	△		○
カジカ	△	○			△	△			◎	○	○	△		△
ウツセミカジカ				△								○		△
ヌマエビ								◎						
テナガエビ								△						◎
スジエビ								◎			△			○
アメリカザリガニ			△											△
サワガニ	△	△					△		△		△			

表6 河川における地点別魚類等採集結果(2)

種名	野洲川				大戸川				信楽川		瀬田川※	
	1994年		2002~03年		1994年		02~03年		1994	2002	1994	02~03
	上流 (大原川)	上流 中流 下流	上流 中流 下流	上流 中流 下流	上流 中流	上流 中流	上流 中流	上流 中流	上流	上流	中流	中流
スナヤツメ			△							△		△
ウナギ				△								
アユ			○	○			◎	○	△	△		○
イワナ	△	△			○							○
ニジマス												
ヤマメ												
アマゴ	△	○			△			○		△		
ビワマス												
カワムツ	○	◎	△	△	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎
					B型	B型		B型	B型		B型	A型
オイカワ	△	△	◎	◎	△		○	◎	△	△	◎	◎
ハス				△								
ウグイ												
アブラハヤ	◎		△	△	△							
タカハヤ	△				○			○		○	◎	
タモロコ			○	△								△
ホンモロコ		△										
ムギツク	○	△			○			△	○	○		○
モツゴ		△	△									△
ビワヒガイ												△
カマツカ	○		○	△	○			○	○	△	△	◎
ゼゼラ				△								△
スゴモロコ			○									△
デメモロコ												△
イトモロコ	○		○									◎
ニゴイ												△
ズナガニゴイ	△		○									△
コイ			△							△		△
ニゴロブナ			△	△	△							△
ゲンゴロウブナ		△	△	△								△
ギンブナ			△	△			△	△	△	△		△
フナ類稚魚			○	△								△
ヤリタナゴ			△				△					△
アブラボテ		◎			△							◎
タイリクバラタナゴ			△	△								◎
カネヒラ												△
ドジョウ								△		○		△
シマドジョウ	○	△	△	△	△					△	△	△
アジメドジョウ	△		△		△					△	△	○
ホトケドジョウ												
ギギ			△	△					△	△		△
アカザ	△	△					△		△	△		△
ナマズ			△		△			△	△	△		△
メダカ												△
カムルチー												
コクチバス										△		
オオクチバス				○								△
ブルーギル				△								△
ドンコ		△	△						△	△		◎
ヨシノボリ			○	◎	○		○	○	△	△		○
カワヨシノボリ	○	○			△	○		○	○	○	○	△
ヌマチチブ				○	○							◎
ウキゴリ				○								△
カジカ	△				△					△	△	
ウツセミカジカ				△								
ヌマエビ			△									◎
テナガエビ				△								◎
スジエビ	△	△	○	◎	△		△	○				△
アメリカザリガニ		△	△	△								
サワガニ		△						△		△		

表6 河川における地点別魚類等採集結果(3)

種名	安曇川						石田川		
	1994年			2002~03年			1994	2003	
	上流 (針瀬川)	中流	下流	上流 (針瀬川)	中流	下流	上流	上流	
スナヤツメ	△		△	△	△	○	△	△	※瀬田川中流は大石川下流地点を含む
ウナギ	△		△	△		△	△		
アユ		△	◎	△		△			※記号の説明 ・上流調査 調査一日当たりの採捕尾数 △<10≦○<50≦◎ ・中・下流調査 調査1時間当たりの採捕尾数 △<10≦○<50≦◎
イワナ	△			△			○	○	
ニジマス		△							
ヤマメ									
アマゴ	○	○	△	△			○	△	
ビワマス						△			
カワムツ	○	◎	△	○	○		○	○	
オイカワ		○	○			△	○	○	
ハス			△			△			
ウグイ	○	○	△	△		○	◎	○	
アブラハヤ	○	○	○	○	○	○			
タカハヤ	◎	○		◎			○	◎	
タモロコ									
ホンモロコ							△	△	
ムギツク									
モツゴ		△							
ビワヒガイ			△						
カマツカ		○				△	△		
ゼゼラ									
スゴモロコ									
デメモロコ									
イトモロコ		◎	△		△				
ニゴイ						△			
ズナガニゴイ									
コイ									
ニゴロブナ			△			△			
ゲンゴロウブナ									
ギンブナ									
フナ類稚魚			△						
ヤリタナゴ									
アブラボテ									
タイリクバラタナゴ									
カネヒラ									
ドジョウ			△						
シマドジョウ	○	△	△	△	△	△			
アジメドジョウ									
ホトケドジョウ									
ギギ									
アカザ		△					△	△	
ナマズ									
メダカ									
カムルチー									
コクチバス									
オオクチバス									
ブルーギル									
ドンコ	△	△		△	△				
ヨシノボリ		△	○		○	◎			
カワヨシノボリ	○	△		○			△		
ヌマチチブ			○			△			
ウキゴリ			○		△	○			
カジカ	◎			○			○	○	
ウツセミカジカ			○			○			
ヌマエビ			○						
テナガエビ						○			
スジエビ			○			◎	△		
アメリカザリガニ						△			
サワガニ									

表7 内湖における地点別魚類等採集結果および前回調査との比較

地点	余呉湖		伊庭内湖		西の湖		堅田内湖		近江舞子内湖
	'94~'95	'02~'03	'94~'95	'02~'03	'94~'95	'02~'03	'94~'95	'02~'03	'02~'03
調査年									
漁具設置日数	3	2	5	2	84	2	2	2	2
取り上げ回数	2	2	3	2	17	2	2	2	2
ウナギ	△				△				
ワカサギ	◎	◎							
アユ	△		△	△	△		△		
カワムツ			△	△				△	
オイカワ			○	△	△				
ハス					△				
ワタカ							△		
タモロコ	△								
ホンモロコ	△						△	△	
モロコ類稚魚	○								
モツゴ	△		△	△			◎	◎	
ビワヒガイ	△								
ツチフキ				△	△		△		
ぜぜら					△				
デメモロコ						△			
コイ	△		△		△		△		
ニゴロブナ	△	△	△		△		△		
ゲンゴロウブナ	△				△		△		
ギンブナ	△		△	△	△			△	
フナ類稚魚			△		△		△		
タイリクバラタナゴ				△	△		◎	◎	
イチモンジタナゴ	△								
カムルチー			△		△			△	
オオクチバス		△	△	△	△	△			◎
ブルーギル		△	○	◎	△	◎	△	△	◎
ヨシノボリ	△			△			△	△	
ヌマチチブ	◎	△	△		△				
ウキゴリ	△								
テナガエビ	◎	△	△	△	△	△	○	△	△
スジエビ	◎	△	△		△		◎	◎	
アメリカザリガニ	△		○	◎	○	△	△		
魚類種数	15	5	11	10	15	3	14	8	2
甲殻類種数	3	2	3	2	3	2	3	2	2

・小型定置網による1日1統あたりの採捕尾数 △<10≤○<50≤◎

表8 琵琶湖沿岸における地点別魚類等採集結果および前回調査との比較(小型定置網)

地点	湖北町延勝寺		彦根市八坂町		近江八幡市牧町		大津市衣川		新旭町針江	
	'02~'03	'02~'03	'94~'95	'02~'03	'94~'95	'02~'03	'94~'95	'02~'03	'94~'95	'02~'03
調査年										
漁具設置日数	3	6	3	3	4	3	5	3		
取り上げ回数	3	5	3	3	4	3	5	3		
ウナギ		△								
アユ	△	◎			△		△	△		
ビワマス								△		
カワムツ								△		
オイカワ		◎	◎	△	△		○	△		
ハス	△	△			△					
ウグイ		△			△					
アブラハヤ							△			
ホンモロコ	△							△		
モツゴ	△	△	△		△		△			
ビワヒガイ	△	△					○	△		
カマツカ		△			△					
ゼゼラ	△	△								
スゴモロコ		△			△					
ニゴイ	△		△							
コイ		△	△		△		△			
ニゴロブナ	△	△				△		△		
ゲンゴロウブナ				△						
ギンブナ		△								
フナ類			△		△		△			
フナ類稚魚	△	△		△				△		
ヤリタナゴ	△		○	△						
タイリクバラタナゴ			○							
シロヒレタビラ							△			
カネヒラ	◎	△	△		△		○	○		
スジシマドジョウ							△			
ナマズ	△	△								
カムルチー	△			△						
オオクチバス	○	△	△	△	○	△	△	○		
ブルーギル	◎	◎	○	◎	○	○	△	△		
ヨシノボリ	△	△	△	△	△		△			
ヌマチチブ		△	△		△		△	△		
イサザ	△	△								
ウキゴリ		△	△				△	△		
ウツセミカジカ							△	△		
ヌマエビ			△							
テナガエビ	○	○	○	◎	◎	△	◎	◎		
スジエビ	◎	◎	◎	△	△		◎	◎		
アメリカザリガニ	△	△	△	△	○		△	△		
魚類種数	16	22	13	7	14	3	16	13		
甲殻類種数	3	3	4	3	3	1	3	3		

・小型定置網による1日1統あたりの採捕尾数

△<10 ≤ ○<50 ≤ ◎

表9 琵琶湖沿岸における地点別魚類等採集結果および前回調査との比較(小型沖曳網)

地点	湖北町尾上沖		彦根市柳川町沖	近江八幡市牧町砂浜		近江八幡市牧町沖		大津市本堅田沖		マキノ町海津沖	
	'94~'95	'02~'03	'02~'03	'94~'95	'02~'03	'94~'95	'02~'03	'94~'95	'02~'03	'94~'95	'02~'03
調査回数	2	4	4	6	4	6	4	1	3	3	4
ワカサギ							△				◎
アユ				△							
オイカワ				△	△	△					
ハス			△								
ホンモロコ		△			△	△					
モツゴ										△	
ビワヒガイ	△	△	△	△	△	△	△				△
カマツカ				△		△					△
ゼゼラ				△	△	○	△				
スゴモロコ				△	△	△					
デメモロコ						△					
ニゴイ				△		△					
フナ類稚魚		△								△	
カネヒラ				△							
オオクチバス	△	△	△	△	△	△	△		△	△	△
ブルーギル	△	△	△	△	○	△	△	△	○	△	△
ヨシノボリ	△	◎	◎	○	◎	◎	◎	△	△	△	○
ヌマチチブ	△	△	◎	△	○	△	◎			△	
ウキゴリ		○	△	△	△		△				△
ハゼ科仔魚		△	◎		○		◎		△		△
ヌマエビ	○			△	△						△
テナガエビ		△		△		△					
スジエビ	△	○	◎	◎	△	○	○			◎	◎
魚類種数	5	8	7	13	10	12	8	1	3	6	7
甲殻類種数	2	2	1	3	2	2	1	0	0	1	2

・小型沖曳網による1支網あたりの採捕尾数

△ < 10 ≤ ○ < 50 ≤ ◎

表10 エリ漁獲物の標本調査における地域別魚類等採集結果および前回調査との比較

地域	北部		東部		東南部		南部		西部	
	'94~'95	'03	'94~'95	'03	'94~'95	'03	'94	'03	'94~'95	'03
調査年										
調査回数	3	1	2	2	3	2	2	2	2	2
スナヤツメ	△									△
ウナギ	△				△				△	
ワカサギ	◎	◎	△	△	◎		△		△	◎
アユ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ビワマス				△					△	
オイカワ	△				△		△			
ハス	△	△	△	△	◎	○	△	△	△	△
ウグイ	△	○	△		○				△	○
ハクレン									△	
ホンモロコ	△	△	△		◎		○	△	△	
ビワヒガイ	△	△	△	△	△		○		△	
カマツカ	○	△	△		△				△	△
ゼゼラ			○	△	◎	◎	△		△	○
スゴモロコ	△	△	△	△	△	○		△	△	△
デメモロコ	△		△	△	◎	△	○		△	
ニゴイ	△	△	△	△	○	○	△		△	△
コイ	△	△			△					△
ニゴロブナ	○			△	△		△			△
ゲンゴロウブナ					△					
ギンブナ	△	△		△			△	△		△
フナ類雑魚				△						
ヤリタナゴ	△									
シロヒレタビラ	○								△	
カネヒラ	△								△	
ギギ	△								△	
ナマズ				△						
イワトコナマズ	△				△					
カムルチー							△		△	
オオクチバス	△	○	△	△	○		○	△	△	△
ブルーギル	△	◎	△		○		◎	◎	△	△
ヨシノボリ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	○	◎
ヌマチチブ	△		△	△	△	△	○	△	△	
イサザ	△	△		△					△	◎
ウキゴリ	△				○		◎			
ウツセミカジカ	○	△	△	○	△	△			○	○
ヌマエビ			△				△			
テナガエビ	△	○	△	△	△	△	△	△	△	○
スジエビ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
アメリカザリガニ			△		○		△			
魚類種数	28	16	16	18	23	9	17	9	23	17
甲殻類種数	2	2	4	2	3	2	4	2	2	2

・エリ1ツボあたりの採捕尾数

△<10≦○<100≦◎

表11-1 琵琶湖沖合における地点別魚類等採集結果および前回調査との比較(沖曳網)

地点	長浜市沖													
	20		30		40		50		60		70		80	
水深(m)	'94	'02~'03	'94	'02~'03	'94	'02~'03	'94	'02~'03	'94	'02~'03	'02~'03	'02~'03	'02~'03	'02~'03
調査年	'94	'02~'03	'94	'02~'03	'94	'02~'03	'94	'02~'03	'94	'02~'03	'02~'03	'02~'03	'02~'03	'02~'03
調査回数	3	2	1	2	1	2	1	2	1	2	2	2	2	2
ワカサギ	△	◎	○	○		○		◎		◎	△	△	△	△
アユ	◎	◎	△	○		△		△		△	△	△	△	△
ビワマス							△	△	△	△	△	△	△	△
オイカワ		△							△					
ハス	◎	◎	○	◎	△	○	△	○	△	◎	○	○	○	○
ウグイ	△	△		△		△		△		△	△	△	△	△
ホンモロコ	○		△		△		○		◎	△	△	△		
ビワヒガイ	○	△		△										
カマツカ			△	△	△		○	△	○	△	△	△	△	△
ぜぜら	◎		△	△		△	△	△	△	△	△	△	△	△
スゴモロコ	△	◎		○		○	△							
デメモロコ	◎	△	◎	○	◎	○	◎	○	△	○	△	△	△	△
ニゴイ	△		△		△									
コイ		△												
ニゴロブナ	△	△		△		△				△	△	△	△	△
ゲンゴロウブナ	△	△												
ギンブナ	△										△	△	△	△
オオクチバス	△					△	△	△	△	△	△	△	△	△
ブルーギル	◎	○	○	△				△	△	△	△	△	△	△
ヨシノボリ	△			△		△		△		△	△	△	△	△
ヌマチチブ				△			△		△					
イサザ	△				△	△					△	△	△	△
ウツセミカジカ	△	△	△	△	△		○	△	○	△	△	△	△	△
テナガエビ				○		○		△						
スジエビ	◎	△	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
魚類種数	18	13	10	14	6	11	10	12	9	14	13	13	11	11
甲殻類種数	1	1	1	2	1	2	1	2	1	1	1	1	1	1

地点	新旭町沖				安曇川町沖	
	90	80	70	20	20	40
水深(m)	'02~'03	'02~'03	'02~'03	'02~'03	'94	'02~'03
調査年	'02~'03	'02~'03	'02~'03	'02~'03	'94	'02~'03
調査回数	2	2	2	2	2	2
ワカサギ	△	△	○	△	△	○
アユ	△	△	△	○	△	○
ビワマス						
オイカワ						
ハス	△	○	◎			◎
ウグイ	△	△	○			
ホンモロコ		△	△		○	
ビワヒガイ						
カマツカ		△	△	△	△	△
ぜぜら			○	△		△
スゴモロコ		△	△			○
デメモロコ			△			△
ニゴイ			△	△		△
コイ		△				
ニゴロブナ	△	○	◎		△	
ゲンゴロウブナ			△			
ギンブナ		△	△			
オオクチバス						
ブルーギル					◎	
ヨシノボリ		△	○	△		△
ヌマチチブ						
イサザ		△	△		△	△
ウツセミカジカ		△	○	△	○	△
テナガエビ					△	△
スジエビ	◎	◎	◎	◎	◎	◎
魚類種数	4	13	16	7	8	11
甲殻類種数	1	1	1	1	2	2

・沖曳網による1曳網あたりの採捕尾数 △<10≤○<100≤◎

表11-2 琵琶湖沖合における地点別魚類等採集結果および前回調査との比較(沖曳網)

地点	彦根市沖						高島町沖				
	20		30	40	50	60	80	60	50	40	20
水深(m)	'94	'02~'03	'03	'03	'03	'03	'03	'03	'03	'03	'03
調査年	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調査回数											
ワカサギ	△	○	△	○	◎	○	△	○	△	△	◎
アユ	◎	◎	○	○	△						
ビワマス						△					
オイカワ											
ハス	△	○	△	△	○	◎	◎	◎	△		
ウグイ					△		△	△	○		
ホンモロコ						△	△				
ビワヒガイ	△	△			△						
カマツカ						△	△				
ぜぜら	○	△	△	○	○	○		△	○	△	△
スゴモロコ		○	△		△			△	△		
デメモロコ	△	△	△	△	○	○		△	○		△
ニゴイ								△			
コイ					△		△				
ニゴロブナ					△	△	○	△			
ゲンゴロウブナ											
ギンブナ											
オオクチバス		△									
ブルーギル	◎	△	△	△	△						
ヨシノボリ		△	△	△	△	○	△	△		△	
ヌマチチブ		△									
イサザ	△			△			△				
ウツセミカジカ			△	△	△	△	△	△		△	△
テナガエビ		△	○	△				○	△		○
スジエビ	◎	△	○	○	○	◎	◎	◎	○	○	○
魚類種数	8	11	9	9	13	10	10	10	7	4	4
甲殻類種数	1	2	2	2	1	1	1	2	2	2	2

地点	近江八幡市沖					志賀町沖				
	20		40	50	60	70	60	50	30	30
水深(m)	'94~'95	'02~'03	'03	'03	'03	'03	'03	'03	'03	'03
調査年	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1
調査回数										
ワカサギ			△	△	○	△	◎	○	△	◎
アユ	◎	○	◎	△	○	○	△	△	◎	◎
ビワマス										
オイカワ										
ハス				△	◎	◎	◎	△		△
ウグイ				△	△	△	△	△		△
ホンモロコ						△	△			
ビワヒガイ										
カマツカ				△		△	△	△		△
ぜぜら	△		△	○	△	△	◎	○		△
スゴモロコ			○	○			△	△	△	
デメモロコ	△		△	○	○		○	◎	△	
ニゴイ				△			△			○
コイ		△								
ニゴロブナ				△	△	△	△	△		
ゲンゴロウブナ										
ギンブナ				△						
オオクチバス						△				
ブルーギル	◎	△	△						△	
ヨシノボリ	△	△	△	△	△	△	○	△	△	△
ヌマチチブ		△	△							
イサザ							△			
ウツセミカジカ				△	△	△	△			
テナガエビ		△	◎	○	△			△	△	○
スジエビ	◎	△	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
魚類種数	5	5	7	12	9	11	14	10	6	7
甲殻類種数	1	2	2	2	2	1	1	2	2	2

・沖曳網による1曳網あたりの採捕尾数 △<10≤○<100≤◎